

五霞町公共施設等総合管理計画

個別施設計画（第2期）

令和3年3月

五 霞 町

目次

総論	1
（１） 計画の概要	2
1. 行政系施設	8
（１） 施設の概要	9
（２） 個別施設の状態等	11
（３） 個別方針	12
（４） 対策内容と実施時期	13
（５） 将来コスト推計	14
（６） その他	15
2. コミュニティ施設	16
（１） 施設の概要	17
（２） 個別施設の状態等	19
（３） 個別方針	20
（４） 対策内容と実施時期	21
（５） 将来コスト推計	22
（６） その他	23
3. 学校施設	25
（１） 学校施設の長寿命化計画の背景・目的等	26
（２） 学校の目指すべき姿	28
（３） 学校施設の実態	30
（４） 実施計画	34

4.体育施設	35
（１） 施設の概要	36
（２） 個別施設の状態等	37
（３） 個別方針	37
（４） 対策内容と実施時期	38
（５） 将来コスト推計	39
（６） その他	39
5.福祉施設	40
（１） 施設の概要	41
（２） 個別施設の状態等	43
（３） 個別方針	44
（４） 対策内容と実施時期	45
（５） 将来コスト推計	46
（６） その他	47
6.産業施設	50
（１） 施設の概要	51
（２） 個別施設の状態等	52
（３） 個別方針	53
（４） 対策内容と実施時期	53
（５） 将来コスト推計	54
（６） その他	55

総論

(1) 計画の概要

① 個別施設計画の位置づけ

全国の地方公共団体では、昭和 30 年代後半から昭和 50 年代の高度経済成長期に、公共施設が集中的に整備されてきました。これらの公共施設は整備後 40～50 年以上が経過し、建て替えなどの更新時期を一齐に迎えるようとしており、その老朽化への対策が大きな課題となっています。

また、少子高齢化の進行に伴い、扶助費等の社会保障関連費は増加傾向にあり、財政状況が年々厳しさを増している中で、今後は全国的に既存の公共施設等の更新に充当できる財源は減少傾向になると予測されています。

さらに、人口減少、高齢化の進行等による社会・人口構造の変化に伴って、公共施設等の利用需要も変化しつつあります。このような公共施設等を取り巻く現状と将来予測の中で、公共施設等の状況を把握するとともに、適正な供給量や配置を実現することが全国共通の課題となっています。

このような状況を踏まえ、平成 26 年 4 月に総務省は全国の地方公共団体に対し、公共施設等の総合的かつ計画的な管理を推進するため「公共施設等総合管理計画」の策定に取り組むよう要請しました。

町では、これを受けて「五霞町公共施設等総合管理計画」（以下、「総合管理計画」という）を平成 29 年 3 月に策定しました。

また、総合管理計画に基づき、公共施設等全体の修繕・更新等の発生時期を見通したうえで、分野横断的な視点も踏まえながら 4 力年に対応すべき施設を抽出し、財政収支を意識した事業化を図るための実施計画として、五霞町公共施設等総合管理計画アクションプラン（以下、「アクションプラン」という）を平成 29 年 8 月に策定し、令和 3 年 2 月に改訂を行いました。

これらに定められた横断的な方針や目標を、各施設が連携を取りながら実現するために、個別施設ごとの計画を策定します。

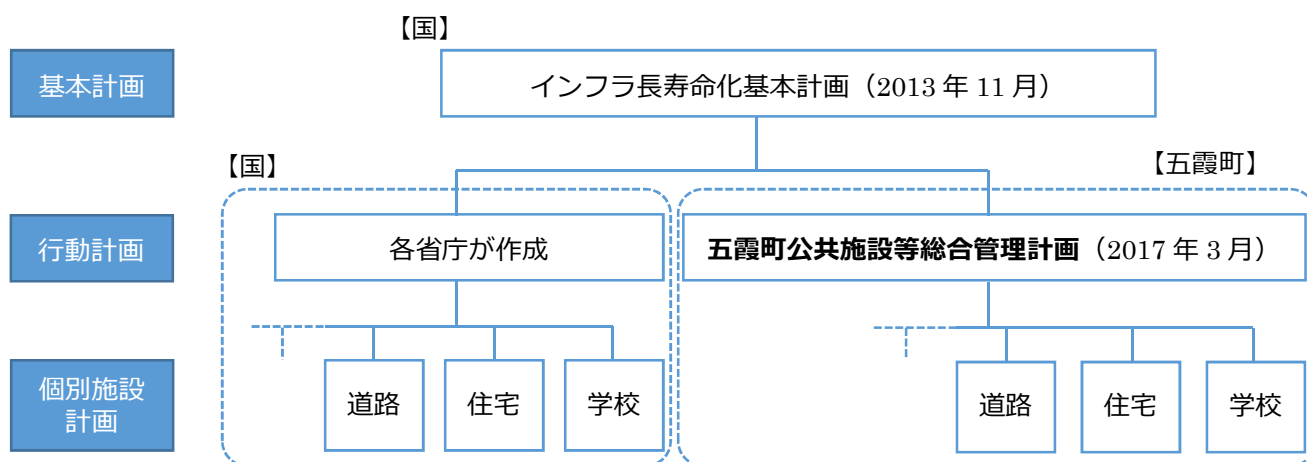


図 1 計画の位置付け

② 目的

本計画は、町が保有する公共施設等を適正に運営管理し、安心・安全に次世代につなぐことを目的とします。

③ 計画期間

本計画の計画期間は、総合管理計画及びアクションプランに整合させ、2017年から2056年までの40年間とします。また、アクションプランと同様、計画期間を10期に分けて推進します。

計画の実施については、施設老朽化状況の実態を定期点検等で継続的に把握することとし、PDCAサイクルによる計画実施マネジメントシステムを構築します。また、本計画についてはアクションプランでの見直し期間に整合させ、4年以内ごとに必要に応じて見直すこととします。

第2期の計画期間は、2021年から2024年までの4年間となります。

計画期間：40年間（2017～2056）									
第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期
2017- 2020	2021- 2024	2025- 2028	2029- 2032	2033- 2036	2037- 2040	2041- 2044	2045- 2048	2049- 2052	2053- 2056

④ 取り組みの推進体制

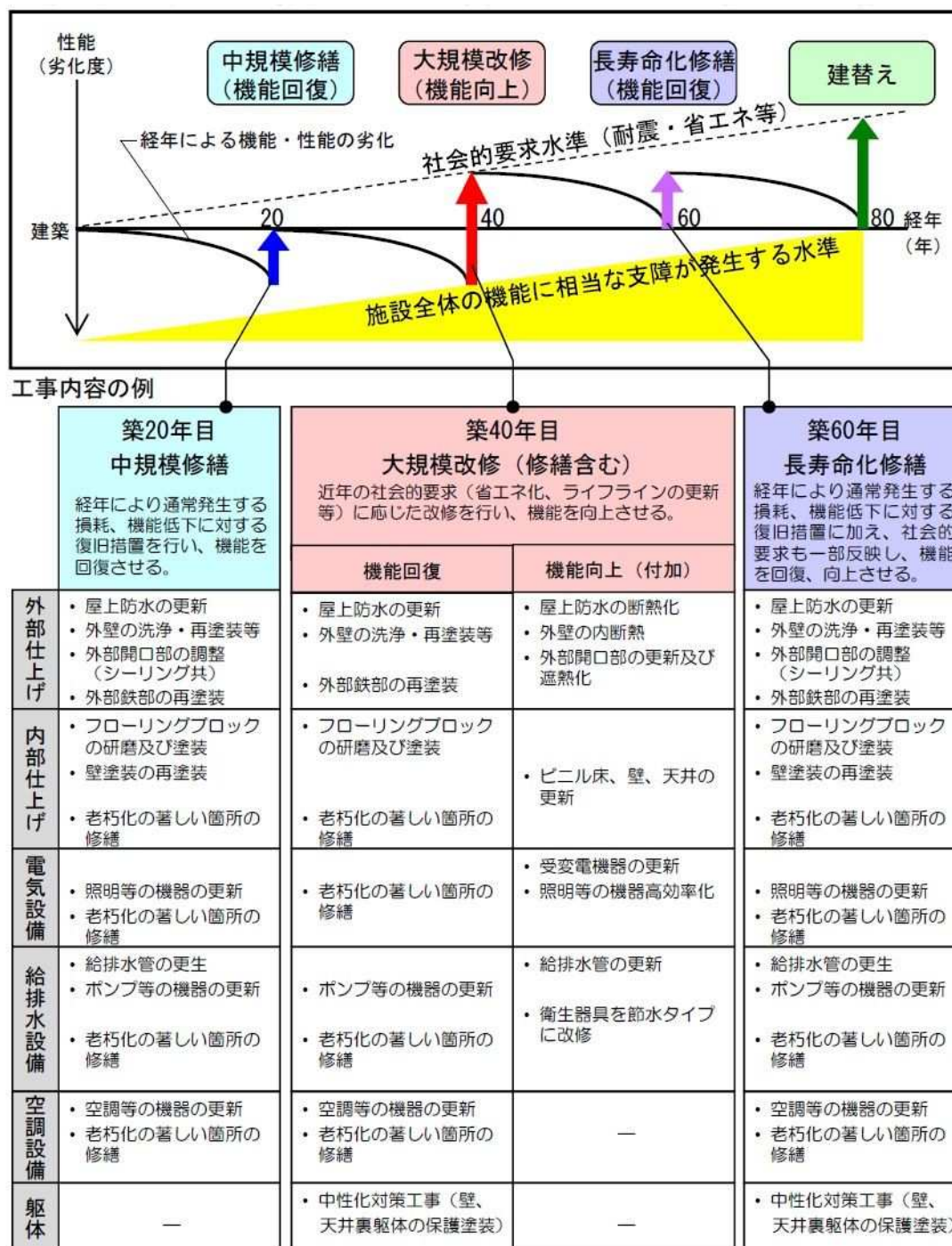
「五霞町公共施設等総合管理計画推進委員会」（以下、推進委員会という）を設置し、長期的かつ総合的な推進を図るために全庁的かつ横断的な組織体制で取り組みます。

アクションプランに基づく個別施設計画の実行は所管課が、進行管理については推進委員会が行います。推進委員会の補助機関として、全庁的に作業及び課題に取り組み、推進委員会の円滑な運営に資するため、グループリーダー等からなる「公共施設等総合管理計画推進ワーキングチーム」（以下「ワーキングチーム」という）を設置して取り組みます。

さらに、総合管理計画に関する事項を調査審議するため、第三者からなる五霞町公共施設等総合管理計画有識者委員会（以下、「有識者委員会」という）を設置し、連携を図りながら方向性を決定していきます。

⑤ 長寿命化の実施方針

本計画では、次のような方針で長寿命化に取り組み、計画的な保全を行うことで、施設の良い状態を長く保つとともに、維持更新コストの縮減を図ります。



※ 工事内容は参考を示したものであり、ここに書かれていないものでも、それぞれの工事の目的に合致するものであれば実施できる。

図 2 修繕、改修、建替えのイメージ（出典：五霞町公共施設等総合管理計画）

⑥ 計画の構成

本計画では、町の保有する公共施設について、総合管理計画の際に分類された用途ごとに個別施設計画を整理することとします。

表 1 個別施設計画策定施設とその分類一覧

1. 行政系施設	ア) 消防施設	消防団分団詰所 第一分団詰所
		消防団分団詰所 第二分団詰所
		消防団分団詰所 第三分団詰所
		消防団分団詰所 第四分団詰所
	イ) 防災・防犯施設	五霞町地域安全センター
2. コミュニティ施設	ウ) コミュニティ施設	五霞町中央公民館
		五霞ふれあいセンター
3. 教育施設	エ) 小学校	五霞町立五霞東小学校
		五霞町立五霞西小学校
	オ) 中学校	五霞町立五霞中学校
4. 体育施設	カ) 体育施設	五霞町 B&G 海洋センター
5. 福祉施設	キ) 福祉センター	五霞町福祉センター「ひばりの里」
	ク) 福祉施設	五霞町保健センター
		五霞町介護予防センター
	ケ) 児童館	五霞町立ごか西児童館
		五霞町立ごか南児童館
6. 産業施設	コ) 産業施設	五霞町多目的集会センター
		道の駅ごか

※ 1. 行政系施設のうち、役場庁舎においては建て替え計画を検討しているため、施設の長期的な維持修繕について計画する本計画では対象としないこととします。

※ 総合管理計画の分類では、表で示した他に「7. 公園施設」がありますが、建築物の規模が小さいため、本計画では対象としないこととします。

表 1 に示した施設分類について、次の章立てにて整理します。

- (1) 施設の概要
- (2) 個別施設の状態等
- (3) 個別方針
- (4) 対策内容と実施時期
- (5) 将来コスト推計
- (6) その他

⑦ 共通事項

計画策定のための建物情報の整理

本計画では、適正な運営管理に資するため、建物の現状を把握します。

1) 対象建物の基本情報整理

対象建物について、施設規模や構造種別、床面積、築年数などの情報を整理します。

2) 老朽化状況の把握

建物の老朽化状況を把握するため、対象建物について現地調査（以下「劣化状況調査」とする）を実施します。劣化状況調査は、建築基準法 12 条に基づく定期の検査・報告内容とは別途実施する調査であり、対象となる「屋根・屋上」、「外壁」、「内部仕上」、「機械設備」、「電気設備」の 5 部位について、専門家の目視調査※により実施します。



図 3 劣化状況調査の様子

※目視調査では、各部位の劣化度合いを肉眼にて観察するほか、クラックスケールを用いたひび割れ幅の計測や、外壁及び床などを叩いた音により浮きや剥離を検知する打診調査を行います。

3) 今後の維持更新コストの把握

本計画では、町の所有する施設個々の劣化状態や必要改修項目を把握します。今後は、施設個々でなく町全体の施設について、統合や廃止など運用に関する検討を行います。2020 年度に予定している総合管理計画の見直し時には、この運用に関する検討に基づき、維持更新コストを考慮した町の施設全体の更新・運用計画を策定します。このようにして、総合管理計画と個別施設計画のサイクルを構築し、確実な計画の実施に資するものとします。

劣化度調査の評価

建物の劣化状況を評価する際には、「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書（平成 29 年 3 月文部科学省）」に記載されている、「老朽化状況の把握」を基に行います。

調査は、施設の「屋根・屋上」「外壁」「内部仕上」「電気設備」「機械設備」の 5 部位について、A（概ね良好）～D（早急に対応する必要がある）の 4 段階に評価し、部位の評価点と部位のコスト配分を考慮した「施設の健全度」を算出します。この健全度を、施設の優先順位の判断資料として用います。

評価基準

目視による評価【屋根・屋上、外壁】

評価	基準
良好 A	概ね良好
B	部分的に劣化（安全上、機能上、問題なし）
C	広範囲に劣化（安全上、機能上、不具合発生の兆し）
劣化 D	早急に対応する必要がある （安全上、機能上、問題あり） （躯体の耐久性に影響を与えている） （設備が故障し施設運営に支障を与えている）等

経過年数による評価

【内部仕上げ、電気設備、機械設備】

評価	基準
良好 A	20年未満
B	20～40年
C	40年以上
劣化 D	経過年数に関わらず著しい劣化事象がある場合

健全度の算定

①部位の評価点

	評価点
A	100
B	75
C	40
D	10

②部位のコスト配分

部位	コスト配分
1 屋根・屋上	5.1
2 外壁	17.2
3 内部仕上げ	22.4
4 電気設備	8.0
5 機械設備	7.3
計	60

③健全度

$$\text{総和}(\text{部位の評価点} \times \text{部位のコスト配分}) \div 60$$

※100点満点にするためにコスト配分の合計値で割っている。
※健全度は、数値が小さいほど劣化が進んでいることを示す。

（右図「劣化状況調査票」記入例における健全度計算例）

	評価	評価点	配分	
1 屋根・屋上	C	40	× 5.1	= 204
2 外壁	D	10	× 17.2	= 172
3 内部仕上げ	B	75	× 22.4	= 1,680
4 電気設備	A	100	× 8.0	= 800
5 機械設備	C	40	× 7.3	= 292
				計 3,148
				÷ 60
				健全度 52

出典：「学校施設の長寿命化計画策定に係る解説書」（平成 29 年 3 月文科省）

1. 行政系施設

- 消防団分団詰所 (生活安全課 くらし安心グループ)
- 五霞町地域安全センター (生活安全課 くらし安心グループ)

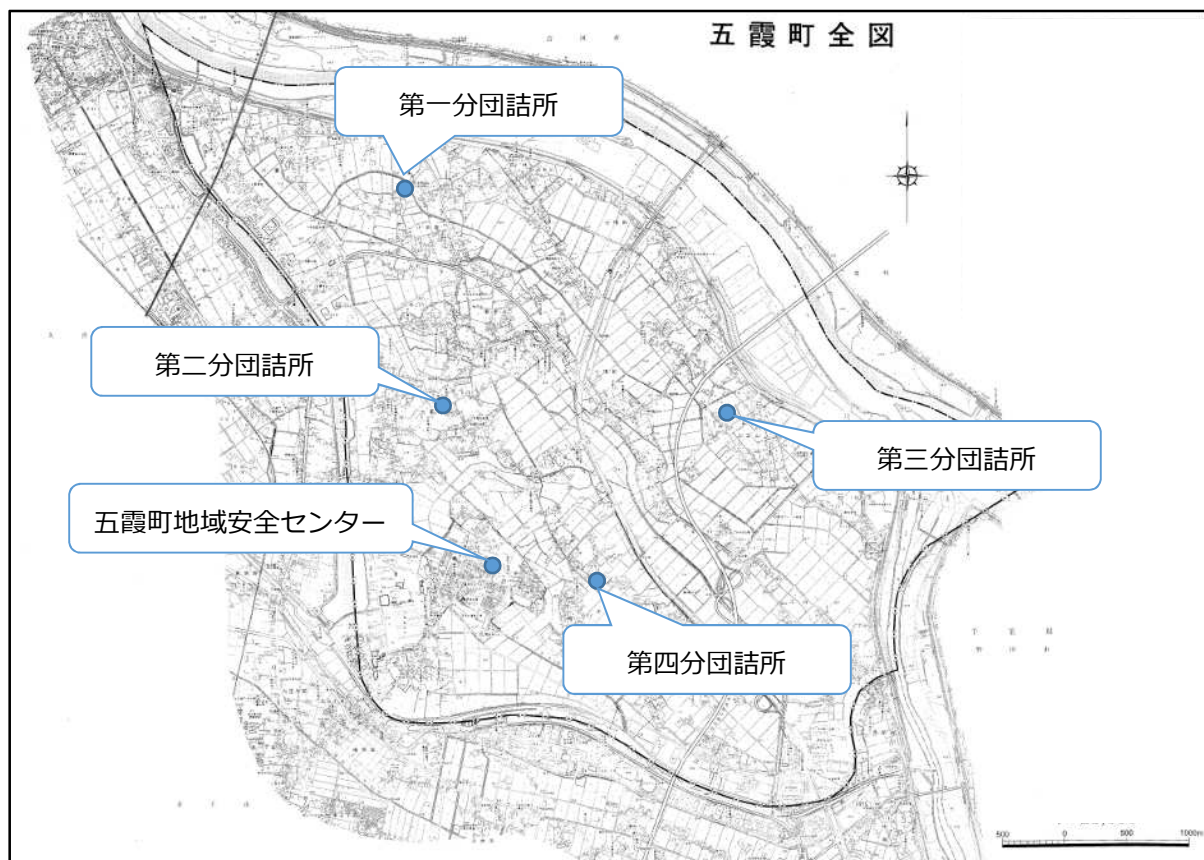
(1) 施設の概要

■ 施設概要一覧

施設	建物規模 ／延床面積	建築年度 ／築年数	全景
① 消防団分団詰所 第一分団詰所	鉄骨造 地上 1 階 90.00 m ²	1989 年 築 31 年	
② 消防団分団詰所 第二分団詰所	鉄骨造 地上 1 階 90.00 m ²	1989 年 築 31 年	
③ 消防団分団詰所 第三分団詰所	鉄骨造 地上 1 階 90.00 m ²	1989 年 築 31 年	
④ 消防団分団詰所 第四分団詰所	鉄骨造 地上 1 階 90.00 m ²	1989 年 築 31 年	
⑤ 五霞町 地域安全センター	木造 地上 1 階 20.00 m ²	2000 年 築 20 年	

※建築年度は施設の主要な棟が建築された年度を示す。築年数は 2020 年 10 月現在。

■ 施設位置図



(2) 個別施設の状態等

■ 施設劣化情報（2017年時点）

建物基本情報							構造躯体の健全性			劣化状況評価					
名称		建築年		築年数	延床面積 (㎡)	構造	耐震安全性			屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全度
施設	棟	西暦	和暦				基準	診断	補強						
消防団分団詰所	第一分団詰所	1989	H1	29	90	S	新	-	-	C	C	C	C	C	40
消防団分団詰所	第二分団詰所	1989	H1	29	90	S	新	-	-	C	C	C	C	C	40
消防団分団詰所	第三分団詰所	1989	H1	29	90	S	新	-	-	C	C	C	C	c	40
消防団分団詰所	第四分団詰所	1989	H1	29	90	S	新	-	-	C	C	C	C	C	40
地域安全センター		2000	H12	17	20	W	新	-	-	A	A	B	B	B	84

・消防団分団詰所は、主に天井や建具などの内部仕上や外壁について劣化事象を確認しました。

・五霞町地域安全センターは、特に劣化事象は確認されませんでした。

■ 目標耐用年数の設定

① 消防団分団詰所

・総合管理計画の建物更新等判断基準に従い、当施設は 40年間の使用を目標とするが、計画的な改修は行わず、応急的な修繕にて対応します。

② 五霞町地域安全センター

・総合管理計画の建物更新等判断基準に従い、当施設は 40年間の使用を目標とするが、計画的な改修は行わず、応急的な修繕にて対応します。

(3) 個別方針

■ 個別方針

① 消防団分団詰所

更新時の方向性	・ 町を守る拠点として、現状を維持保全しながら利用します。 ・ 計画的な修繕は行わず、応急的な対応をします。
配置の考え方	・ 現施設数を維持します。
主な機能の考え方	・ 消防施設
特記事項	

② 五霞町地域安全センター

更新時の方向性	・ 町を守る拠点として、現状を維持保全しながら利用します。 ・ 計画的な修繕は行わず、応急的な対応をします。
配置の考え方	・ 現施設数を維持します。
主な機能の考え方	・ 防犯施設
特記事項	

(4) 対策内容と実施時期

① 第 2 期における更新・工事計画

・消防団分団詰所は、各分団共通の設計内容・劣化状況であるため、内容を同一とします。

No.	施設名	2021	2022	2023	2024
1	消防団 分団詰所	なし	なし	なし	なし
2	五霞町 地域安全 センター	なし	なし	なし	なし

② 第 3 期以降における更新、工事の予定

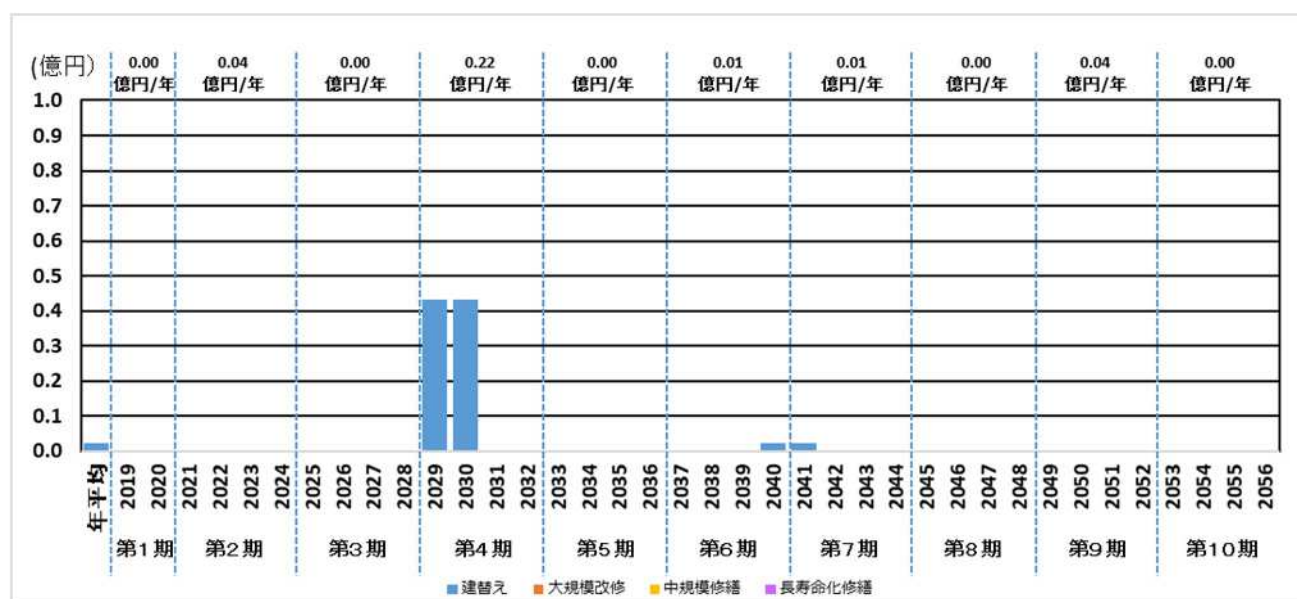
No.	施設名	第 1 期	第 2 期	第 3 期	第 4 期	第 5 期	第 6 期	第 7 期	第 8 期	第 9 期	第 10 期
1	消防団 分団詰所				建替え						
2	五霞町地域安 全センター						建替え				

※維持補修については、点検・診断に基づき随時実施するものとします。

(5) 将来コスト推計

期	総計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
年度		-2020	-2024	-2028	-2032	-2036	-2040	-2044	-2048	-2052	-2056
億円	0.90	—	—	—	0.86	—	0.02	0.02	—	—	—
億円/ 年	0.02	—	—	—	0.22	—	0.01	0.01	—	—	—

※将来コスト推計の総計は、四捨五入の処理上、各期の合計値と一致しないことがあります。



(6) その他

① 対策の優先順位に資する事項

■ 消防団分団詰所

イ. 施設が果たしている機能と役割	・消防団とは、消防本部や消防署と同様、消防組織法（昭和 22 年法律第 226 号）に基づき、それぞれの市町村に設置される消防機関です。地域における消防防災のリーダーとして、平常時・非常時を問わずその地域に密着し、住民の安心と安全を守るという重要な役割を担います。 ・消防団は、常勤の消防職員が勤務する消防本部や消防署とは異なり、火災や大規模災害発生時に自宅や職場から現場へ駆けつけ、その地域での経験を活かした消火活動・救助活動を行う、非常勤特別職の地方公務員です。 ・消防団分団詰所は、消防署との連携を向上させ、充実した消防・救急体制の構築や消防団活動に資する地域防災上重要な役割を持つ施設です。 ※出典：総務省消防庁 HP
ロ. 施設の利用状況	・現在、消防団分団詰所は人が常時利用している施設ではありません。月に数回、消防団員が集い地域の防災警戒活動の拠点として利用しています。
ハ. 施設の重要性	・消防団分団詰所は、地域防災に資する重要な役割を持つ施設であるといえます。 ・常時人がいる施設ではないため、設備面での劣化等について、対応の優先順位は低いといえますが、災害時の拠点としての機能が期待されることから、建物躯体に関する劣化、或いは外壁、屋上など防水に関わる劣化については、日常的な注視と対策が必要です。

■ 五霞町地域安全センター

イ. 施設が果たしている機能と役割	・五霞町地域安全センターは、地域の防犯施設として設けられており、縮減や統廃合対象となることは考えにくいです。
ロ. 施設の利用状況	・五霞町地域安全センターは、日常的ではありませんが月に数回程度、警察官や防犯団体が見回りの際に利用しています。
ハ. 施設の重要性	・常時人がいる施設ではないため、設備面での劣化等について、対応の優先順位は低いといえますが、災害時の拠点としての機能が期待されることから、建物躯体に関する劣化、或いは外壁、屋上など防水に関わる劣化については、日常的な注視と対策が必要です。

2. コミュニティ施設

- 五霞町中央公民館 (教育委員会 生涯学習グループ)
- 五霞ふれあいセンター (総務課 人権推進室)

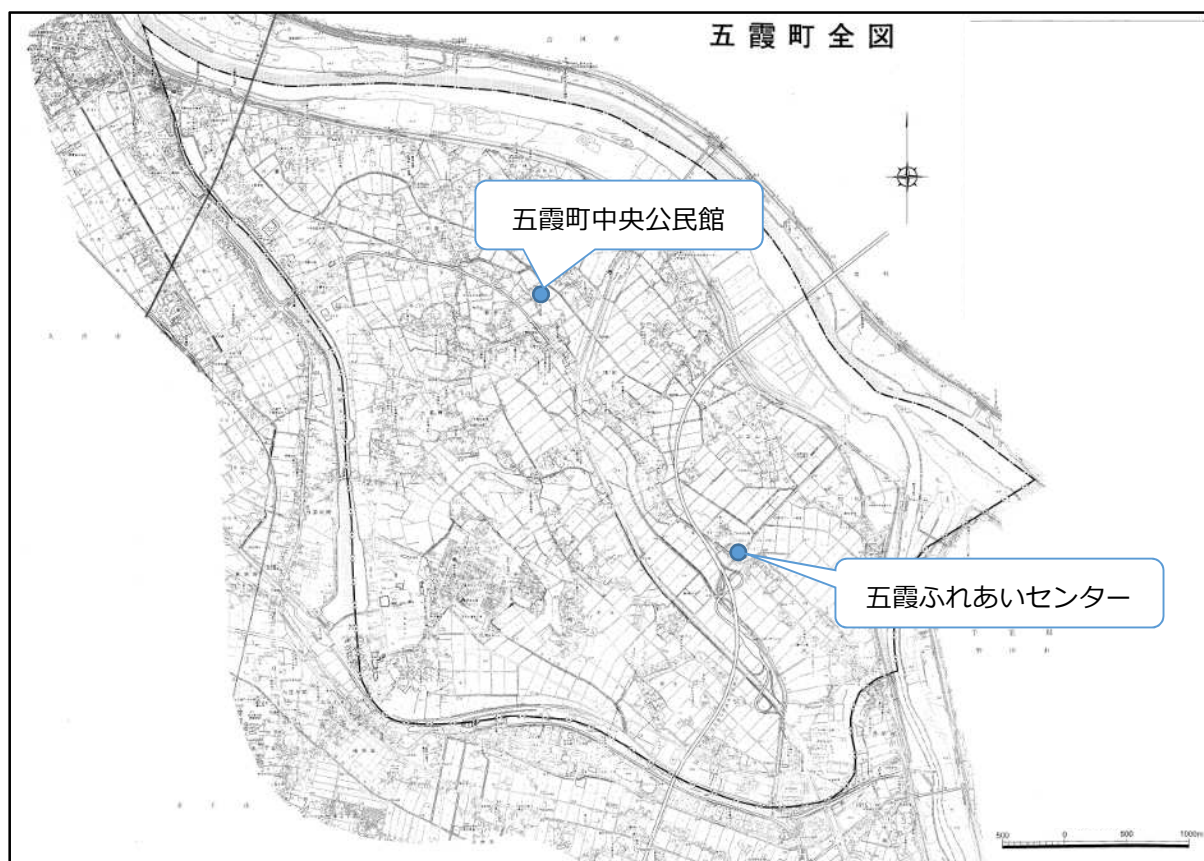
(1) 施設の概要

■ 施設概要一覧

施設	建物規模 ／延床面積	建築年度 ／築年数	全景
①五霞町中央公民館	RC 造 地上 3 階 3027.32 m ²	1979 年 築 42 年	
②五霞ふれあいセンター	鉄骨造 地上 1 階 499.55 m ²	1990 年 築 30 年	

※建築年度は施設の主要な棟が建築された年度を示す。築年数は 2020 年 10 月現在。

■ 施設位置図



(2) 個別施設の状態等

■ 施設劣化情報（2017年時点）

建物一覧表

建物基本情報							構造躯体の健全性			劣化状況評価					
名称		建築年		築年数	延床面積 (㎡)	構造	耐震安全性			屋根	外壁	内部	電気	機械	健全度
施設	棟	西暦	和暦				基準	診断	補強	屋上		仕上	設備	設備	
中央公民館	本館	1979	S54	39	2253	RC	旧	済	済	D	D	B	C	C	42
	講堂	1979	S54	39	774	RC	旧	済	済	D	D	B	C	C	42
ふれあいセンター	-	1990	H2	28	499.55	S	新	-	-	C	B	B	B	B	72

・五霞町中央公民館は、主に屋根屋上や外壁の塗装材劣化が確認され、部分的なコンクリートの剥離事象などが確認されています。建築から40年が経過し、電気設備及び機械設備の劣化も懸念されるうえ、外周部の汚れやひび割れが全体的に目立っています。

・五霞ふれあいセンターは、屋根の下地に劣化が確認され、雨天時には雨漏り等が発生する状況です。

■ 目標耐用年数の設定

① 五霞町中央公民館

・五霞町役場庁舎等公共施設基本構想に基づき、五霞町中央公民館は役場庁舎との複合化を推進します。

② 五霞ふれあいセンター

・総合管理計画の建物更新等判断基準に従い、当施設は80年間の使用を目標として、大規模改修、長寿命化修繕を実施する計画です。

(3) 個別方針

■ 個別方針

① 五霞町中央公民館

更新時の方向性	・ 役場庁舎と複合化を推進します。
配置の考え方	・ 複合化を通して、気軽に幅広く利用できる施設であることを知ってもらい 子供、子育て世代から高齢者まで集まれる施設にします。
主な機能の考え方	・ 集会所、図書室、その他多目的利用室など
特記事項	・ 役場庁舎との複合化を推進します。

② 五霞ふれあいセンター

更新時の方向性	・ 現状の施設を維持保全しながら利用します。 ・ 幅広い世代の利活用を促進します。
配置の考え方	・ 現施設数を維持します。
主な機能の考え方	・ ホール、多目的利用室など
特記事項	・ 集客がある道の駅ごか、ごかみずべ公園と連携を図り、観光的な観点からも利用 対策を検討します。

(4) 対策内容と実施時期

① 第2期における更新・工事計画

No.	施設名	2021	2022	2023	2024
1	五霞町中央 公民館	なし	なし	複合化工事	複合化工事
2	五霞ふれあい センター	なし	なし	なし	なし

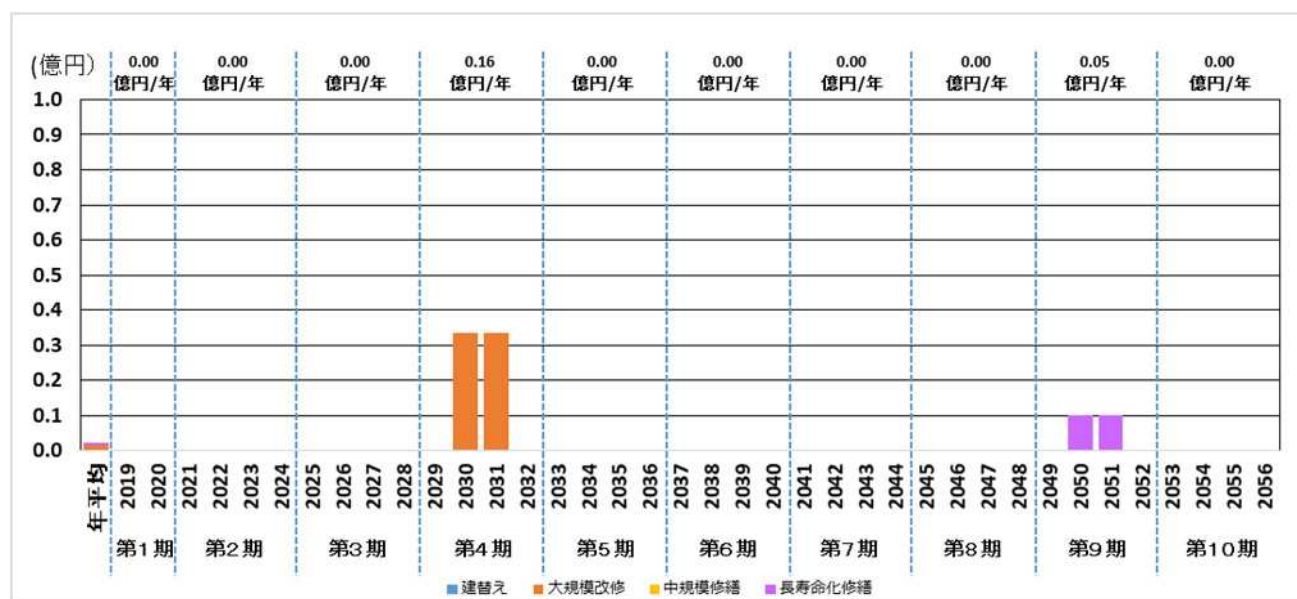
② 第3期以降における更新、工事の予定

No.	施設名	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期
1	五霞町中央 公民館		複合化	※複合化の施設に考慮します							
2	五霞ふれあい センター				大規模 改修					長寿命化 修繕	

※維持補修については、点検・診断に基づき随時実施するものとします。

(5) 将来コスト推計

期	総計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
年度		-2020	-2024	-2028	-2032	-2036	-2040	-2044	-2048	-2052	-2056
億円	0.87	—	—	—	0.66	—	—	—	—	0.20	—
億円/ 年	0.02	—	—	—	0.16	—	—	—	—	0.05	—



(6) その他

① 対策の優先順位に資する事項

■ 五霞町中央公民館

イ. 施設が果たしている機能と役割	・五霞町中央公民館は、1979年に建築されています。また、建物内には町の唯一の図書館機能が備えられています。会議室や調理室などがあり、町民生活の拠点を担う施設です。
ロ. 施設の利用状況	・五霞町中央公民館は、年間約 1.7 万人の町民に利用されています。
ハ. 施設の重要性	・五霞町中央公民館は、町民生活に重要な役割を担っているが、バリアフリーへの対応が未実施であり、また老朽化に伴う安全性への懸念が残された状態です。さらに、2016年に実施された総合管理計画「対話の場」の中では、公民館への役割に対し住民の方から疑問の声が上がっており、改めてその役割、機能について検討が求められています。 ・築後 40 年が迫り、大規模改修の実施に関する検討に迫られています。前述の問題を解決するために役場庁舎との複合化を推進します。

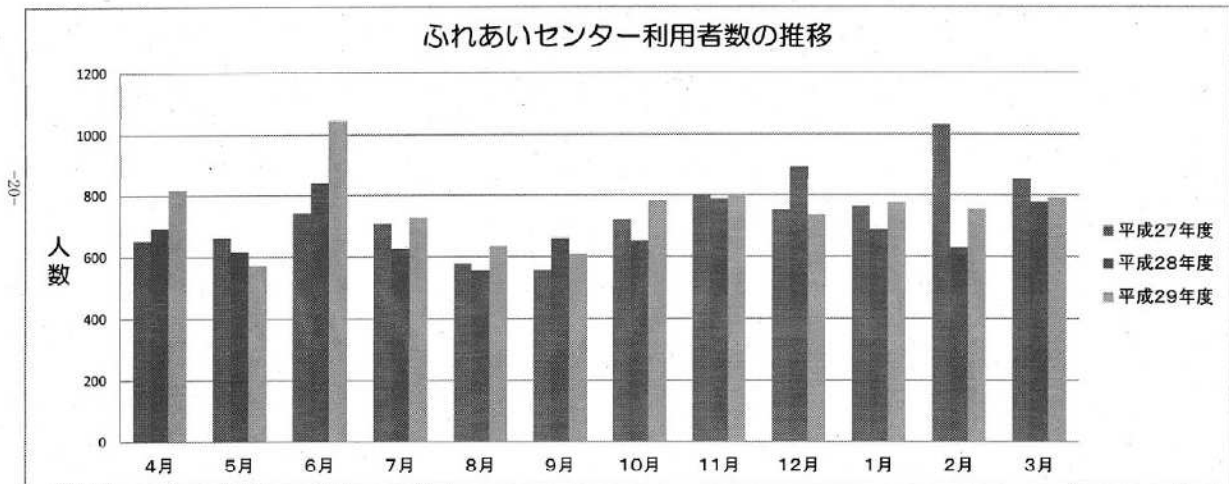
■ 五霞ふれあいセンター

イ. 施設が果たしている機能と役割	・五霞ふれあいセンターは、地域社会全体の中で、福祉の向上や、人権啓発のための住民交流の拠点となる、開かれた「コミュニティーセンター」として、生活上の各種相談事業や、人権課題解決のための各種事業を総合的に行うことを目的として建築されています。（平成 14 年 8 月 29 日付・厚生労働省事務次官通知より） ・五霞ふれあいセンターは、地域社会に密着した福祉施設として、地域住民の生活課題に応じて実態調査や研究事業をはじめ、各種相談事業、地域福祉事業、啓発及び広報活動、交流促進事業、その他広範な事業を日常的に推進する開かれたコミュニティーセンターとして総合的機能を発揮することが強く求められています。
ロ. 施設の利用状況	・直近 3 年の利用者数の推移と利用件数の推移を示します。年間約 8,500 人の利用者数があり、年間約 680 件の利用件数がある施設です。 ・主な利用用途としては、主事業である相談事業の他、「趣味の会」や「会議等」であり、賀詞交歓会や地元で活動が盛んなコーラスグループの活動拠点となるなど、町民生活に深く関わりのある施設です。
ハ. 施設の重要性	・五霞ふれあいセンターは、町民生活において重要な役割を持つ施設であるといえます。利用頻度の高い施設であり、建築年数も他の公共施設に比べて

新しいことから、長期的な利用を目指した計画的維持修繕が求められる、重要施設です。

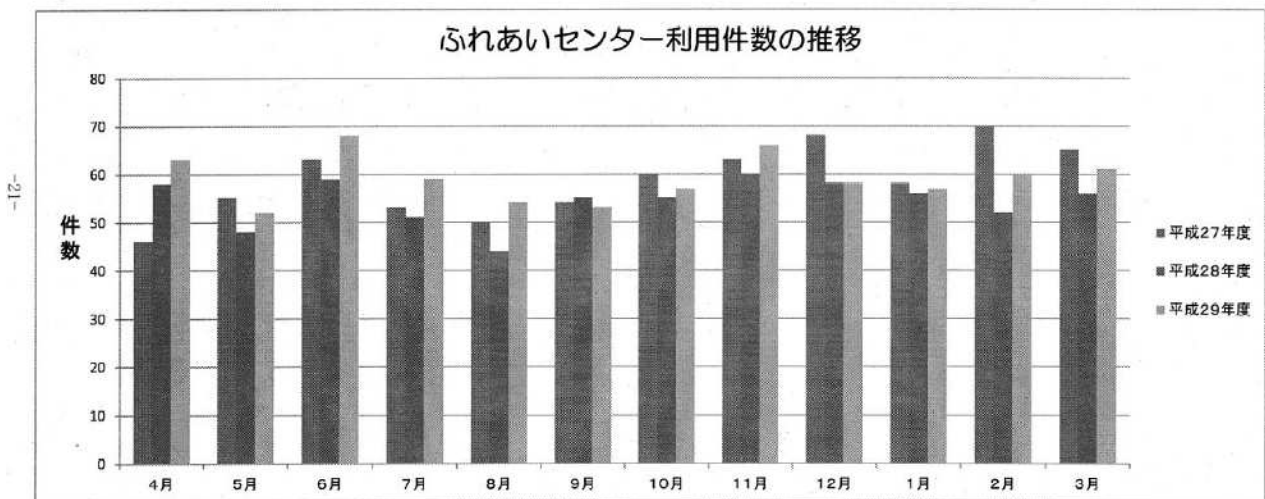
■ ふれあいセンター利用者数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
平成27年度	654	663	744	709	578	557	723	801	753	765	1033	853	8,833 人
平成28年度	694	616	842	628	556	660	655	788	893	691	632	779	8,434 人
平成29年度	816	573	1043	729	637	609	782	804	738	778	756	791	9,056 人



■ ふれあいセンター利用件数の推移

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合 計
平成27年度	46	55	63	53	50	54	60	63	68	58	70	65	705 件
平成28年度	58	48	59	51	44	55	55	60	58	56	52	56	652 件
平成29年度	63	52	68	59	54	53	57	66	58	57	60	61	708 件



3. 学校施設

- 五霞町立五霞東小学校（教育委員会 学校教育グループ）
- 五霞町立五霞西小学校（教育委員会 学校教育グループ）
- 五霞町立五霞中学校（教育委員会 学校教育グループ）

（１）学校施設の長寿命化計画の背景・目的等

① 策定の背景

五霞町の学校施設は、２つの小学校と１つの中学校があり、町の所有する全公共施設面積の 48.0%を占めています。

施設のうち小学校は、校舎と体育館共に築 50 年を迎えようとしており、老朽化が進んでいます。今後、大規模改修や建替えに多額の費用が必要になることが十分に予想されることから、これらの適正な維持管理が、他の自治体同様に課題となっています。

また、学校教育環境の形成に深く関わることから、施設の劣化状況だけでなく、将来の人口見通しや児童生徒数及び学級数の変遷を踏まえた、総合的、効果的な公共施設等の整備及び管理運営を実現していくことが必要となっています。



写真：五霞町立五霞中学校の全景

② 策定の目的

「五霞町公立学校施設長寿命化計画」（以下「本計画」という。）は、上記の背景を踏まえて学校施設を総合的観点で捉え、豊かな学習環境の長期継続を意識した適正な修繕・改修計画を立案します。

築年数の浅い学校施設においては、適切な維持管理計画を立案、実施することで、建物耐用年数の長寿命化を図り、将来的な町の財政負担の軽減を図ります。

教育環境の質的改善も考慮しながら、計画的な点検を実施し、修繕・改修の優先順位の設定に資するとともに、これに要するコストの縮減と平準化を図ることを目的として本計画を策定します。

③ 対象施設

本計画における対象施設を表 1 に示します。

表 1 対象施設一覧

名称		住所	延床面積 (㎡)	建築年度
五霞町立五霞東小学校	校舎	江川 200	3,653	1970
	体育館		735	1972
五霞町立五霞西小学校	校舎	元栗橋 1072	3,311	1971
	体育館		792	1973
小学校 小計			8,491	-
五霞町立五霞中学校	校舎	元栗橋 953	5,343	2004
	体育館		1,889	1995
	武道場		901	1988
中学校 小計			8,133	-
小中学校 合計			16,624	-

※建築年度は施設の主要な棟が建築された年度を示す。

(2) 学校の目指すべき姿

総合管理計画の内容を踏まえつつ、国や地方公共団体の教育振興基本計画や学習指導要領のほか、各地方公共団体の教育ビジョン等に掲げられた施策を基本として、それらを実現するために学校施設としてどのような機能・性能が必要となるかを検討し、目指すべき姿を示します。

第6次五霞町総合計画第4編第I期基本計画（五霞町教育振興基本計画）においては、

- (1) 時代に対応した学校教育の推進
- (2) 学校教育推進のための基盤づくり
- (3) 生涯学習の充実と豊かな歴史文化の継承

を施策の基本方針と定め、教育、学術及び文化の振興に関する総合的な施策について取り組んでいます。また、総合管理計画では、小規模自治体の強みを生かした教育拠点の更なる充実や、子どもたちが安全で快適な学校生活を送れるような施設整備、緑豊かな学習環境の実現を今後目指していくことを謳っています。

今後の本計画に基づく学校施設の改修整備等において配慮すべき課題を整理するとともに、さらに社会の変化・発展に対応した学校施設の役割強化を図るため、五霞町学校施設の目指すべき姿を表のように定めます。

表2 施設の目指すべき姿

- 1. 安全で快適な教育拠点の整備
- 2. 防災機能の向上
- 3. 教育環境の充実

1. 安全で快適な教育拠点の整備

児童生徒が安心して学習に集中できる環境を整備、または向上させます。小中学校においては、一般教室へのエアコン導入が済んでいますが、バリアフリーに関しては課題を抱えている状態です。さらに、トイレ環境の改善や屋外教育環境施設の整備などにより、快適な学習環境の実現を求められています。

時代の変遷に伴い、タブレット端末を利用した授業形式の普及など、ICT技術の導入が一般化されつつあります。町内においては、既にタブレット端末を用いた授業形式が導入され、Wi-Fi環境については小中学校ともに完備されています。今後も、時代に合わせた多角的な教育形態の実現を目指します。

2. 防災機能の向上

学校施設は、災害時における地域の避難所として利用することが想定されています。地域の防災拠点として重要な役割を担う中で、先の東日本大震災の教訓を活かし、防災備蓄機能の強化などが求められます。

町内の学校施設は、既に防災拠点に必要な耐震性能が備えられていますが、施設の劣化が進行していることから、その性能を過信せずに様々なケースを想定した非常時計画の策定など、防災機能の向上を図ります。

3. 教育環境の充実

現在五霞町の教育施設は、小学校 2 校と中学校 1 校ですが、少子化に伴い、近年小学校の学級編成は多学級を維持できなくなっています。

教育環境という面からみても、同一学年の単学級は決して優れているとはいえません。また、この状況は数年の内に劇的に改善する見込みもなく、むしろさらに少子化が進む予測となっています。

「五霞町の教育環境」という観点では、現状は課題が多い状況であるといえます。今後は、小規模自治体において教育環境を魅力あるものに形成するため、「教育拠点」を集中的に形成するという考え方があり、総合管理計画においてはこれを推進しています。具体的には、小中一貫校等を視野に小学校統合に向けて環境整備を行います。

(3) 学校施設の実態

① 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

i) 対象施設一覧

五霞町の学校施設は、小学校 2 校、中学校 1 校の合計 3 校です。

小学校全体の延べ床面積は 8,491 ㎡、中学校全体の延べ床面積は 8,133 ㎡であり、合計した床面積は 16,624 ㎡です。

表 3 対象施設と児童生徒数及び学級数 (2020 年 5 月 1 日時点)

名称		児童生徒数 (人)		学級数	
		通常学級在籍者数	特別支援	通常学級	特別支援
五霞町立 五霞東小学校	校舎 体育館	187	19	7	4
五霞町立 五霞西小学校	校舎 体育館				
小学校 計		318	31	13	7
五霞町立 五霞中学校	校舎 体育館 武道場	141	29	6	6
中学校 計					
小中学校 計					

ii) 児童生徒数及び学級数の変化

五霞町の小中学校における児童生徒数及び学級数の変化について、図 1 に示します。

五霞町立五霞東小学校では、6 学年のうち、5 学年で 1 学年あたり 1 学級となっています。五霞町立五霞西小学校でも、特別支援学級を除くと 1 学年あたり 1 学級が続いています。

五霞町全体の児童数も減少傾向にあるといえ、2015 年から 2020 年の 6 年間だけでも児童生徒数の合計は 100 人、割合にして 16%程度減少しています。

「五霞町人口ビジョン」においても、今後も町の人口減少が予想されることから、今後の学校のあり方について検討が望まれます。

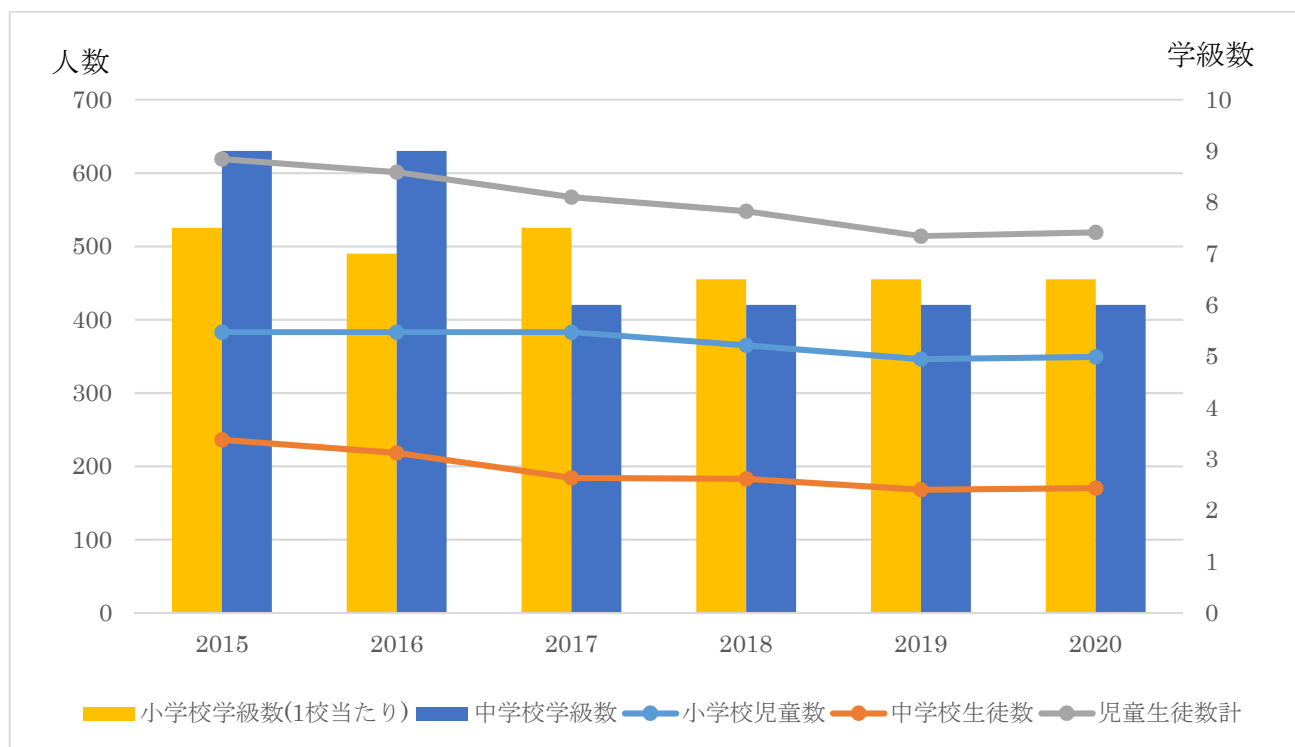
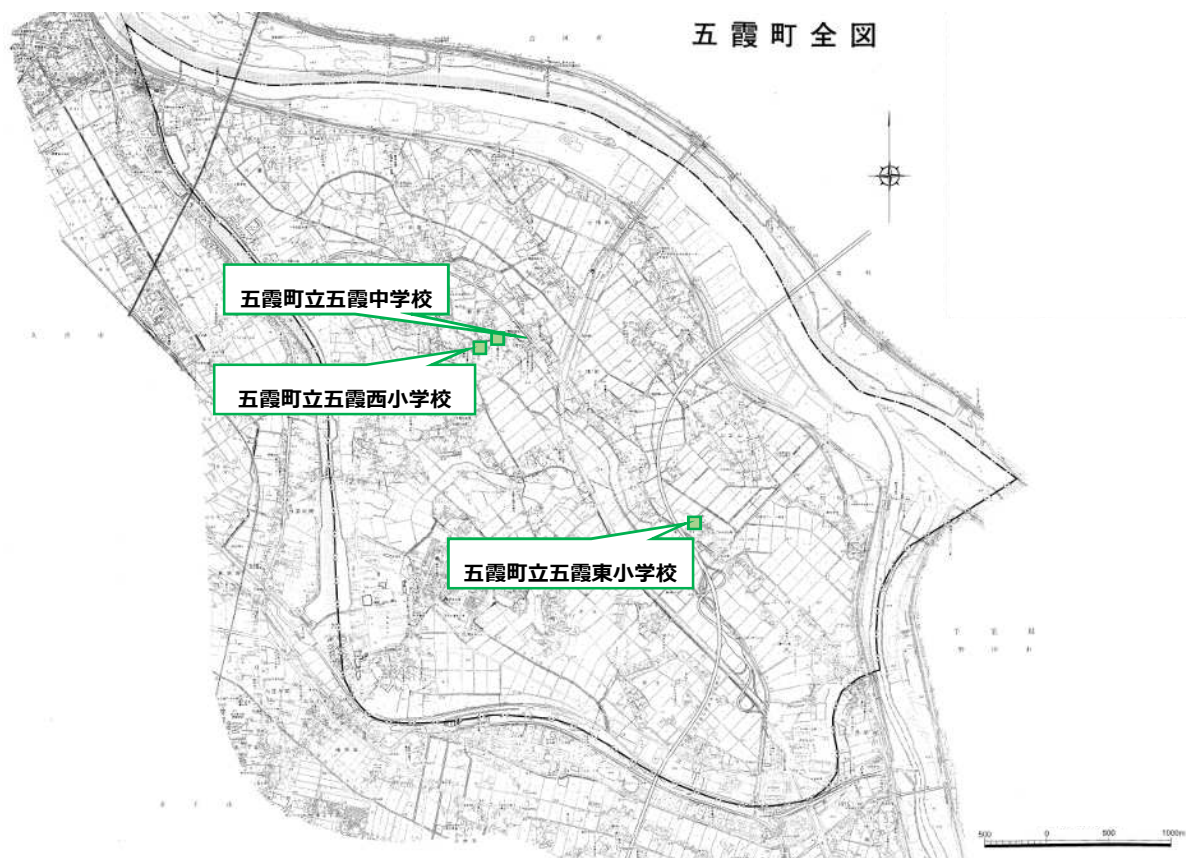


図 1 五霞町の児童生徒数及び学級数の変化（2020 年 5 月 1 日時点）

iii) 学校の配置状況

・五霞町の学校施設の配置状況を示します。五霞町立五霞中学校と五霞町立五霞西小学校は隣接しており、周囲には役場庁舎や郵便局、五霞町中央公民館などがあります。五霞町立五霞東小学校は、五霞ふれあいセンターや五霞町福祉センター「ひばりの里」と隣接しています。



iv) 施設関連経費の推移

直近数年間の施設関連経費の推移を示します。

表 4 3カ年度における施設関連経費とその内訳

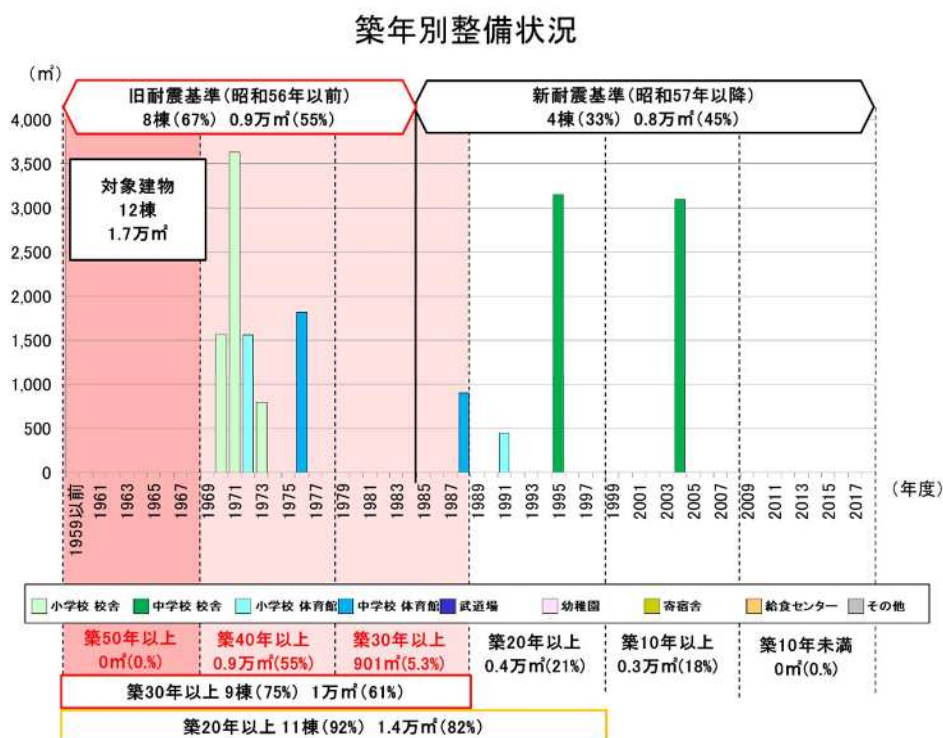
(単位：円)

年度 費用	2017	2018	2019
維持修繕費	1,802,969	2,106,073	2,746,858
水道光熱費	10,198,214	11,252,362	9,829,467
施設整備費	102,273,120	9,224,263	9,262,840
施設関連経費	114,274,303	22,582,698	21,839,165
建築事業費	0	0	0
総事業費	114,274,303	22,582,698	21,839,165

2017～2019年度の3年間の学校施設の維持修繕費、光熱水費、施設整備費の合計である施設関連経費は約2,100万円～11,400万円であり、平均すると約5,200万円／年です。

v) 学校施設の保有量

本計画において対象とする小中学校は、築30年以上の建物が75%にあたる1.0万㎡であり、学校施設の老朽化が進行しています。10年後には、80%以上の面積が老朽化する見込みであり、学校施設については長期利用を見据えた修繕や改修を検討することが不可欠な状態です。



② 学校施設の運営状況・活用状況等の実態

i) 構造躯体の健全性の評価及び構造躯体以外の劣化状況等の評価

実施した劣化状況調査の結果について表 5 に整理します。

小学校においては、両校ともに、防水性能に関する部分で大きな問題を抱えており、この修復には大規模な工事を要する見込みです。築年数はいずれも 40 年を超えており、またこの間大きな改修が行われなかったことを考慮すると、修繕を実施した上で 20 年の使用が限界であるといえます。

中学校においては、建物を長く利用する上で重要な屋根・屋上と外壁について、早急に対応する必要のある D 評価は、五霞町立五霞中学校柔剣道場の外壁などで確認されました。

表 5 建物劣化情報一覧

建物基本情報							構造躯体の健全性			劣化状況評価					
名称		建築年		築年数	延床面積 (㎡)	構造	耐震安全性			屋根	外壁	内部	電気	機械	健全度
施設	棟	西暦	和暦				基準	診断	補強	屋上	屋上	仕上	設備	設備	
五霞中学校	普通教室棟	2004	H16	14	3094	RC	新	-	-	B	B	B	A	A	81
五霞中学校	特別教室棟	1976	S51	42	1819	RC	旧	済	済	B	C	C	C	C	43
五霞中学校	屋内運動場	1995	H7	23	1950	RC	新	-	-	C	B	B	B	B	72
五霞中学校	柔剣道場	1988	S63	30	901	RC	新	-	-	C	D	C	C	C	31
五霞東小学校	特別管理棟 (A棟)	1971	S46	47	888	RC	旧	済	済	D	D	C	C	C	29
五霞西小学校	普通管理教室棟	1971	S46	47	2288	RC	旧	済	済	D	D	C	C	C	29
五霞西小学校	普通教室棟	1972	S47	46	827	RC	旧	済	済	D	D	C	C	C	29
五霞西小学校	屋内運動場	1973	S48	45	792	RC	旧	済	済	D	D	C	C	C	29
五霞東小学校	普通教室棟 (B棟)	1970	S45	48	1566	S	旧	済	済	D	D	C	C	C	29
五霞東小学校	低学年普通教室棟 (C)	1971	S46	47	453	RC	旧	済	済	D	D	D	C	C	18
五霞東小学校	屋内運動場	1972	S47	45	735	RC	旧	済	済	D	D	C	D	D	21

※五霞中学校特別教室棟、屋内運動場については令和 2 年度に中規模修繕済

(4) 実施計画

現在「五霞町立小学校統合及び小中一貫教育基本構想」策定中のため策定後に再検討します。

4. 体育施設

- 五霞町 B&G 海洋センター (教育委員会 生涯学習グループ)

(1) 施設の概要

■ 施設概要一覧

施設	建物規模 ／延床面積	建築年度 ／築年数	全景
① 五霞町 B&G 海洋センター 体育館	RC 造 地上 2 階 1828.00 m ²	1990 年 築 30 年	
② 五霞町 B&G 海洋センター 屋内プール	鉄骨造 地上 1 階 875.00 m ²	1990 年 築 30 年	

■ 施設位置図



(2) 個別施設の状態等

■ 施設劣化情報（2017 年時点）

建物基本情報						構造躯体の健全性			劣化状況評価						
名称		建築年		築年数	延床面積	構造	耐震安全性			屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全度
施設	棟	西暦	和暦				基準	診断	補強						
B&G 海洋 センター	体育館	1990	H2	27	1828	RC	新			B	B	B	B	B	75
	屋内プール	1990	H2	27	875	S	新			A	B	B	B	B	77

・施設は一部の電気設備や機械設備を除いて、特に劣化状況が見られませんでした。

■ 目標耐用年数の設定

・総合管理計画の建物更新等判断基準に従い、当施設は 80 年間の使用を目標として、大規模改修、長寿命化修繕を実施する計画です。

※鉄筋コンクリート造体育館の法定耐用年数は、47 年と定められています。

(3) 個別方針

■ 個別方針

更新時の方向性	・現状の面積を上限として、長寿命化を図ります。
配置の考え方	・現施設数を維持します。
主な機能の考え方	・体育館、屋内プール ・町の中心施設として、町のコミュニティ、憩いの場の中心となるよう施設を充実させます。 ・避難所としての機能の強化を行います。
特記事項	・施設の維持保全のために利用料の設定を検討します。 ・学校施設との連携を検討します。

(4) 対策内容と実施時期

① 第1期における更新・工事計画

No.	施設名	2021	2022	2023	2024
1	五霞町B & G 海洋センター	なし	なし	なし	なし

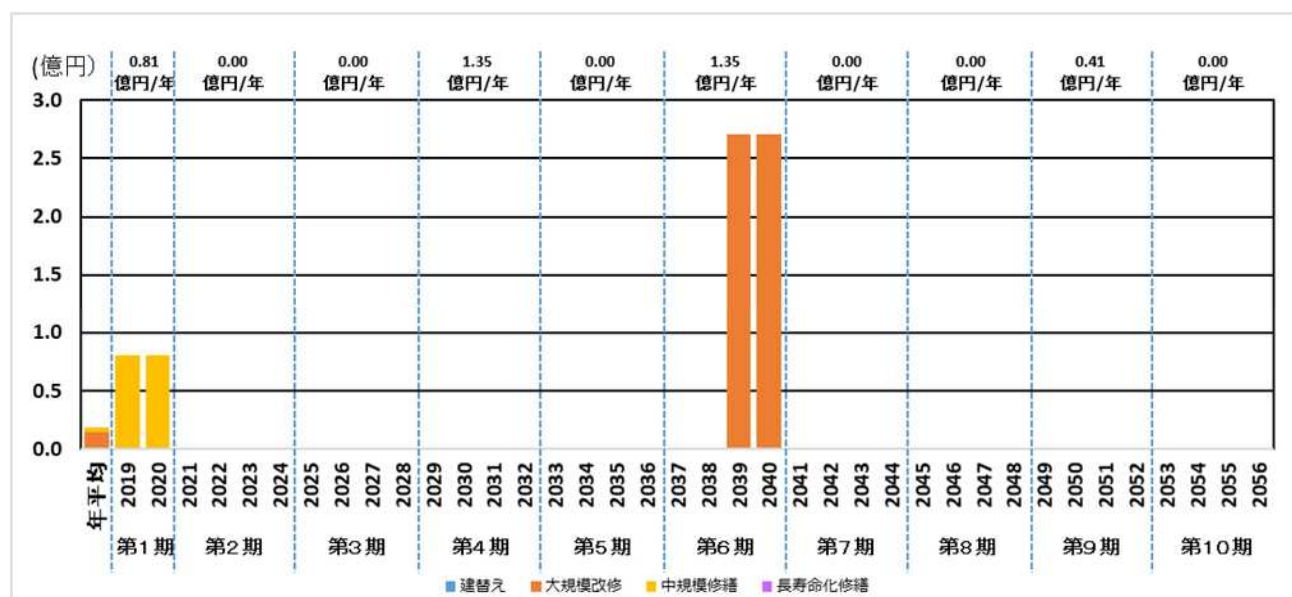
② 第3期以降における更新、工事の予定

No.	施設名	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期
1	五霞町B & G 海洋センター	中規模 修繕					大規模 改修				

※維持補修については、点検・診断に基づき随時実施するものとします。

(5) 将来コスト推計

期	総計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
年度		-2020	-2024	-2028	-2032	-2036	-2040	-2044	-2048	-2052	-2056
億円	7.03	1.62	—	—	—	—	5.41	—	—	—	—
億円/ 年	0.19	0.81	—	—	—	—	1.35	—	—	—	—



(6) その他

① 対策の優先順位に資する事項

イ. 施設が果たしている機能と役割	・当施設は、町内の学校施設におけるプールの役割を担っており、教育環境上重要な位置付けです。
ロ. 施設の利用状況	・当センターは、年間約 1.6 万人（2017 年度推計）に利用されています。 ・町内の他、町外の方からも利用されている施設です。
ハ. 施設の重要性	・当施設が存在することで、学校施設のプール維持管理費を削減できる点と五霞町の健康づくりに重要な位置付けであるといえます。

5. 福祉施設

- ☐ 五霞町福祉センター「ひばりの里」 (健康福祉課)
- ☐ 五霞町保健センター・五霞町介護予防センター (健康福祉課)
- ☐ 五霞町立ごか西児童館 (健康福祉課)
- ☐ 五霞町立ごか南児童館 (健康福祉課)

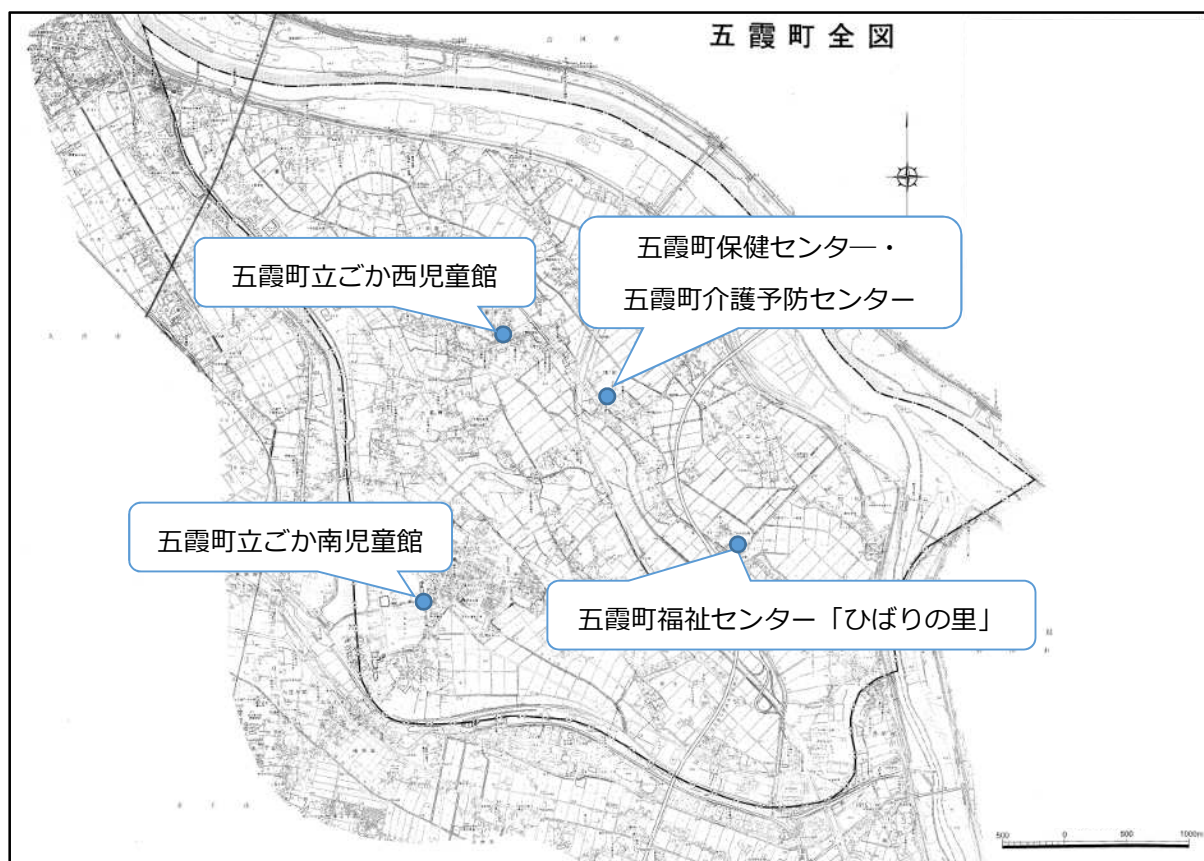
(1) 施設の概要

■ 施設概要一覧

施設	建物規模 ／延床面積	建築年度 ／築年数	全景
① 五霞町福祉センター 「ひばりの里」	RC 造 地上 1 階 1992.97 m ²	1999 年 築 21 年	
② 五霞町保健センター 五霞町介護予防センター	RC 造 地上 2 階 1701.40 m ²	1989 年 築 31 年	
③ 五霞町立 ごか西児童館	木造 地上 1 階 330.00 m ²	1985 年 築 35 年	
④ 五霞町立 ごか南児童館	木造 地上 1 階 330.24 m ²	1990 年 築 30 年	

※建築年度は施設の主要な棟が建築された年度を示す。築年数は 2020 年 10 月現在。

■ 施設位置図



(2) 個別施設の状態等

■ 施設劣化情報（2017年時点）

建物基本情報							構造躯体の健全性			劣化状況評価					
名称		建築年		築年数	延床面積 (㎡)	構造	耐震安全性			屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全度
施設	棟	西暦	和暦				基準	診断	補強						
ひばりの里	-	1999	H11	19	1992.97	RC	新	-	-	B	A	A	B	C	84
保健センター	保健センター	1989	H1	29	919.74	RC	新	-	-	D	C	B	B	B	59
保健センター	介護予防センター	1989	H1	29	781.66	RC	新	-	-	D	C	B	B	B	59
ごか西児童館	-	1985	S60	33	330.00	W	新	-	-	C	C	C	C	C	40
ごか南児童館	-	1990	H2	28	330.24	W	新	-	-	C	C	C	D	D	32

- ・五霞町福祉センター「ひばりの里」は、特に設備面での劣化が確認されました。
- ・五霞町保健センターは、保健センター棟と介護予防センター棟共に屋上防水シートの剥離が確認されるなど、屋上屋根に関して早急な対応が求められています。
- ・五霞町立ごか西児童館においては、雨樋配管の破損から建物内に雨水が侵入している箇所があり、躯体の劣化を促進する恐れがあります。既に応急対応は実施していますが、引き続き経過を注視する必要があります。
- ・五霞町立ごか南児童館においては、電気設備や機械設備において経年劣化が進行している様子が確認されました。

■ 目標耐用年数の設定

- ・五霞町保健センターは総合管理計画の建物更新等判断基準に従い、当施設は 80年間の使用を目標として、大規模改修、長寿命化修繕を実施する計画です。
 - ・但し、五霞町立ごか西児童館・五霞町立ごか南児童館は木造であるため、目標耐用年数は40年間です。
- ※鉄筋コンクリート造体育館の法定耐用年数は、47年と定められています。

(3) 個別方針

■ 個別方針

① 五霞町福祉センター「ひばりの里」

更新時の方向性	・デイサービス機能について、建物の劣化状況や補修費用、周辺の地盤沈下から、他施設での代用を検討します。
配置の考え方	・第3期までは現施設で運用しますが、その後は五霞町保健センター・五霞町介護予防センターへ集約します。
主な機能の考え方	・デイサービス、特殊浴室など
特記事項	

② 五霞町保健センター・五霞町介護予防センター

更新時の方向性	・第4期の大規模改修に併せて五霞町福祉センター「ひばりの里」との複合化を推進します。
配置の考え方	・現施設数を維持します。
主な機能の考え方	・多目的利用室、診療室、介護予防センターなど
特記事項	

③ 五霞町立ごか西児童館・五霞町立ごか南児童館

更新時の方向性	・第3期の西児童館の大規模改修と併せて南児童館と統合します。
配置の考え方	・1施設へ集約します。
主な機能の考え方	・学習室、多目的利用室など ・児童に健全な遊びを与え、その健康を増進し、情操を豊かにするためにも児童館の役割は必要であり重要です。
特記事項	・学校施設の再編計画などの状況に合わせ、施設単独ではなく周辺の公共施設利用状況も考慮した全庁的な検討を図ります。

(4) 対策内容と実施時期

① 第2期における更新・工事計画

No.	施設名	2021	2022	2023	2024
1	五霞町福祉センター「ひばりの里」	なし	なし	なし	なし
2	五霞町保健センター・五霞町介護予防センター	なし	なし	なし	なし
3	五霞町立ごか西児童館	なし	なし	なし	なし
4	五霞町立ごか南児童館	なし	なし	なし	なし

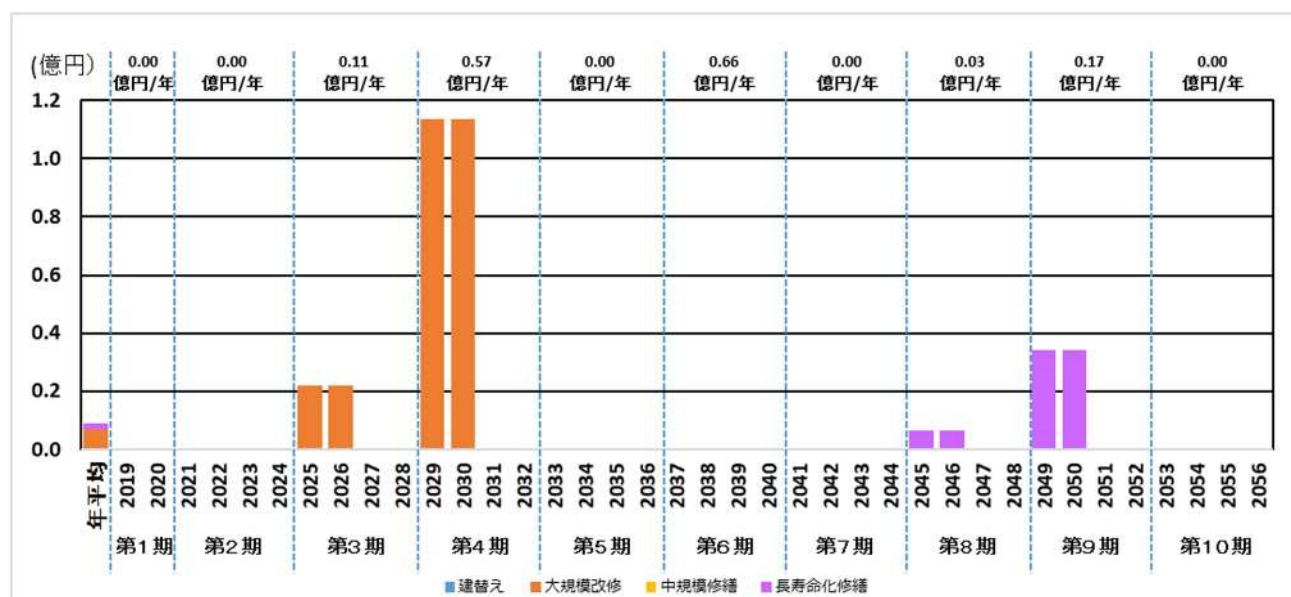
② 第3期以降における更新、工事の予定

No.	施設名	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期
1	五霞町福祉センター「ひばりの里」				集約化						
2	五霞町保健センター・五霞町介護予防センター				大規模改修					長寿命化修繕	
3	五霞町立ごか西児童館			大規模改修					長寿命化修繕		
4	五霞町立ごか南児童館			集約化							

※維持補修については、点検・診断に基づき随時実施するものとします。

(5) 将来コスト推計

期	総計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
年度		-2020	-2024	-2028	-2032	-2036	-2040	-2044	-2048	-2052	-2056
億円	9.20	—	—	0.44	2.27	—	—	—	0.13	0.68	—
億円/ 年	0.24	—	—	0.11	0.57	—	—	—	0.03	0.17	—



(6) その他

① 対策の優先順位に資する事項

■ 五霞町福祉センター「ひばりの里」

イ. 施設が果たしている機能と役割	・現在、施設にはデーサービス施設としてのリハビリテーションルームや特殊浴室が設けられていますが、令和3年度より浴室機能の利用廃止に伴い、必要性、役割を再度検討する必要がある。
ロ. 施設の利用状況	・施設全体の利用者数は、2010年の年間約5万人をピークとし、2014年以降は年間約4.5万人程度で維持されています。 ・施設利用者の内訳については、浴室利用者数は2010年のピーク時年間約4.6万人から、現在では年間約3.5万人と約25%減少しています。さらに、利用料金収入についてはより減少が顕著であり、ピーク時の年間約325万円から現在は年間約139万円まで落ち込んでいる。浴室機能の利用廃止に伴い更なる減少が想定される。
ハ. 施設の重要性	・当施設は昨今老朽化が進行しており、令和3年度から浴室の利用廃止により、更なる利用者の減少が想定されることから必要性・重要性が下がっている。

■ 五霞町保健センター・五霞町介護予防センター

イ. 施設が果たしている機能と役割	・住民健診等の保健活動や、料理教室など健康づくりの拠点として、健康的な町民生活の向上という重要な役割を担っています。
ロ. 施設の利用状況	・五霞町保健センター・五霞町介護予防センターの利用状況を表 2 に示します。乳幼児健診など、保健活動の拠点となっていることがわかります。 ・五霞町保健センターは、年間約 6,000 人が利用しています。主な用途は、各乳幼児健診や相談・教室事業等です。 ・五霞町介護予防センターは、年間約 2,000 人が利用しています。日常的に通所する方々を中心に利用されています。
ハ. 施設の重要性	・五霞町保健センターは町内で唯一の保健活動拠点として重要な役割を持つ施設です。建築年数も比較的新しく、また「五霞町公共施設等総合管理計画」には、福祉施設の中心として他施設からの集約に関する検討が行われる計画もあります。以上の点から、長期的な利用を目指した計画的維持修繕を実施する必要があります。 ・また、五霞町介護予防センターでは、通所機能を持った福祉施設として、障害を持った方を受け入れており、福祉面において重要な役割を持っています。

表 2 年間スケジュールの一例（2019 年度）

乳幼児健診	3～5 カ月児健診	1 歳 6 カ月児健診	2 歳児歯科健診	3 歳児健診
	年 4 回	年 3 回	年 2 回	年 3 回
相談・教室事業	よちよち相談	すくすく相談	離乳食教室	パパ・ママ教室
	年 4 回	年 12 回	年 4 回	年 2 回
成人向け 事業一例	がん検診	乳がん・ 子宮頸がん検診	ふれあいハート 教室	成人健康相談
	年 6 回	年 6 回	年 11 回	年 4 回
その他実施事業 ・予防接種予診票の交付／乳児一般健康診査受診票の交付／妊婦健康診査受診票の交付 ・生活習慣病予防教室／わくわく元気づくり（健康運動指導）／男性の料理教室 他				

■ 五霞町立ごか西児童館・五霞町立ごか南児童館

イ. 施設が果たしている機能と役割	・児童館は、児童福祉法に規定された児童厚生施設であり、18歳未満のすべての子どもを対象とし、地域における遊び及び生活の援助と子育て支援を行い、子どもの心身を健やかに育成し、情操を豊かにすることを目的としています。（参照：「児童館ガイドライン」） ・五霞町の児童館は、子どもたちが自由に来館し、本を読んだり遊具で遊んだり、健全な遊びをして心身の健康を育むことを目的とした施設です。
ロ. 施設の利用状況	施設の利用状況として、2017年度の児童館年間事業報告書の一部を示します。毎月数多くのイベントが実施されており、年間参加人数は合計で1,100～1,600名程度にのぼります。 
ハ. 施設の重要性	・児童館は五霞町の児童が豊かに育つために極めて重要な役割を担っています。都心部を中心に、待機児童の問題が提起されて久しいですが、本施設はその受け皿となりうる設備を保有しており、子育てしやすい五霞町の魅力の象徴として今後その重要性が増すことが十分に想定されます。 ・今後は、児童館を統合し、利用の少ない時間帯の利活用を積極的に検討しながら子どもの安定した日常生活を支援し、地域のコミュニティ拠点となる施設を目指します。

6. 産業施設

- ☐ 五霞町多目的集会センター (産業課)
- ☐ 道の駅ごか (産業課)

(1) 施設の概要

■ 施設概要一覧

施設	建物規模 ／延床面積	建築年度 ／築年数	全景
① 五霞町 多目的集会センター	鉄骨造 地上1階 432.58 m ²	1984 年 築 36 年	
② 道の駅ごか	鉄骨造 地上1階 1,316.00 m ²	2004 年 築 16 年	

■ 施設位置図



(2) 個別施設の状態等

■ 施設劣化情報（2017年時点）

建物基本情報							構造躯体の健全性			劣化状況評価					
名称		建築年		築年数	延床面積 (㎡)	構造	耐震安全性			屋根 屋上	外壁	内部 仕上	電気 設備	機械 設備	健全度
施設	棟	西暦	和暦				基準	診断	補強						
多目的集会 センター	-	1984	S59	34	432.58	S	新	-	-	C	D	D	C	C	20
道の駅 ごか	-	2004	H16	14	1316.00	S	新	-	-	B	B	C	C	D	49

・五霞町多目的集会センターは、外壁のひび割れが進行し、それが原因と思われる雨漏りが建物内部の各所に見受けられます。その他、内部仕上げについても劣化が進行していることが確認されました。

・道の駅ごかは、建築年数が浅いものの、利用頻度が非常に高いことから特に設備面での劣化が進行しています。また、物理的な劣化の他に社会的な劣化が進行しています。具体的には、設計当初には想定されていなかった利用用途或いは利用状況により、動線計画や貯蓄機能、温熱環境性能などにおいて、道の駅としての必要性能を満足していません。

■ 目標耐用年数の設定

・総合管理計画の建物更新等判断基準に従い、両施設は 80年間の使用 を目標として、中規模修繕、大規模改修、長寿命化修繕を実施する計画です。

※鉄筋コンクリート造体育館の法定耐用年数は、47年と定められています。

(3) 個別方針

■ 個別方針

① 五霞町多目的集会センター

更新時の方向性	・施設廃止に向けた検討を行います。
配置の考え方	・施設廃止後の代替施設はありません。
主な機能の考え方	・商工会、工業クラブ、シルバー人材センターなど
特記事項	

② 道の駅ごか

更新時の方向性	・道の駅ごか後背地活用基本構想策定後に再検討します。
配置の考え方	・道の駅ごか後背地活用基本構想策定後に再検討します。
主な機能の考え方	・道の駅ごか後背地活用基本構想策定後に再検討します。
特記事項	・道の駅ごか後背地活用基本構想策定後に再検討します。

(4) 対策内容と実施時期

① 第2期における更新・工事計画

No.	施設名	2021	2022	2023	2024
1	五霞町多目的集会センター	なし	なし	なし	なし
2	道の駅ごか	道の駅ごか後背地活用基本構想策定後に再検討します。			

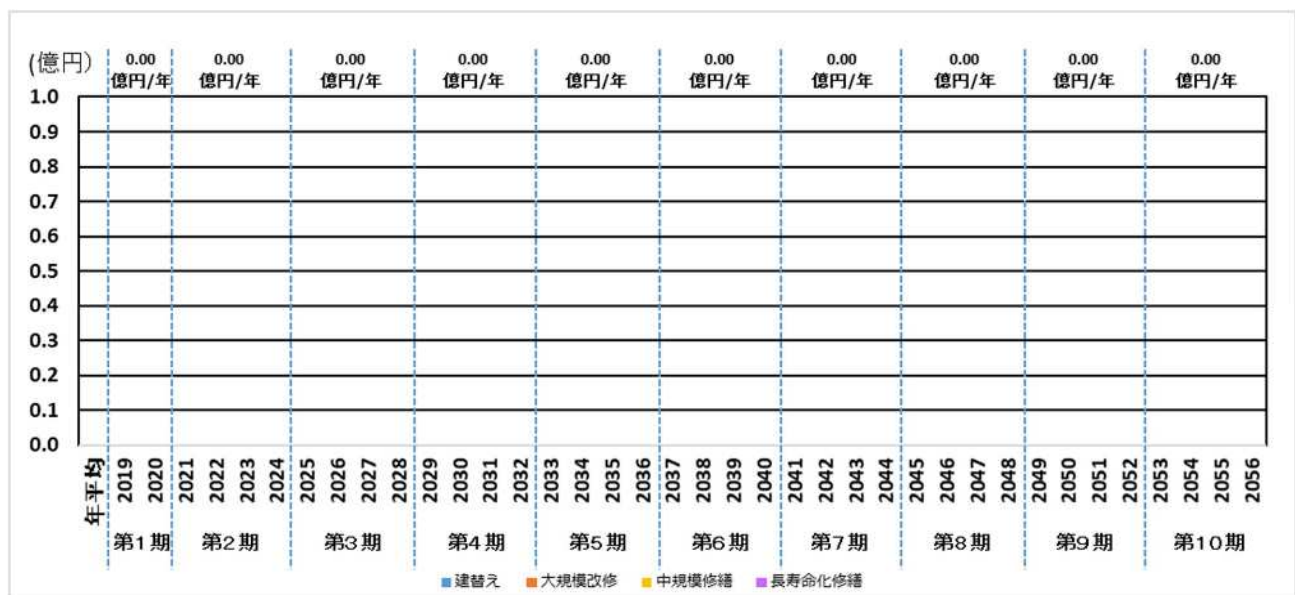
② 第3期以降における更新、工事の予定

No.	施設名	第1期	第2期	第3期	第4期	第5期	第6期	第7期	第8期	第9期	第10期
1	五霞町多目的集会センター				廃止						
2	道の駅ごか		道の駅ごか後背地活用基本構想策定後に再検討します。								

※維持補修については、点検・診断に基づき随時実施するものとします。

(5) 将来コスト推計

期	総計	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
年度		-2020	-2024	-2028	-2032	-2036	-2040	-2044	-2048	-2052	-2056
億円	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
億円/ 年	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—



(6) その他

① 対策の優先順位に資する事項

■ 五霞町多目的集会センター

イ. 施設が果たしている機能と役割	・産業、経済及び文化の振興とコミュニティの促進を図り、もって住民福祉の増進に寄与することを目的に集会施設として建築されました。
ロ. 施設の利用状況	・現在は、町の商工会や工業クラブ、シルバー人材センターが入居しています。但し、設置の目的であった集会施設としての利用は多くありません。
ハ. 施設の重要性	・施設設置の目的と現状の乖離や利用状況から、重要性があまり高くない施設であることから第4期までで廃止します。

■ 道の駅ごか

イ. 施設が果たしている機能と役割	・道の駅ごかは、地域食材供給施設、情報交流施設及び休憩施設として設置され、交流拠点として重要な役割を果たしています。 ・2018年の圏央道開通に伴い、周辺環境が著しく変化していることから、今後さらに町に与える影響が大きくなることが予想されます。設計当初の想定を超えた施設利用の規模から、様々な課題が生じているため、これらを考慮した施設利用計画を策定する必要があります。
ロ. 施設の利用状況	・現在、年間80数万人が利用する町で最も利用頻度の高い公共施設です。 ・一方で、施設面などについて多くの課題を抱えています。一例としては、空調性能及び断熱性能が十分でなく、館内売場が真夏には高温になるといった事象が生じています。
ハ. 施設の重要性	・休憩施設、情報交流施設、地域振興施設など、町の様々な機能を担う重要な施設であることが明らかなです。この施設を長期的により有効に活用することで、町への継続的な良い影響を期待できます。 今後は道の駅ごか後背地活用基本構想に基づいて計画的な整備を行います。